

この山を大事に守っていく!

●「浦高百年の森づくり」春の活動!

今日は「第19回 浦高百年の森」でした。朝7時15分に春日部駅西口を車でスタートして、9時20分に寄居町風布の森に到着しました。

今回、春日部地区浦高会からの参加は、石塚善幸さん(13回)、石田知己さん(16回)、田村友彦さん(16回)、伊藤貴成さん(47回、柔道部OB、ご家族で参加)、そして香田寛美(25回)の5人でしたが、全体では浦高85名(うち生徒9名)、浦和一女39名(うち生徒5名)の124名の参加とのことでした。

10時、川野幸夫・浦高同窓会会長【写真①】のご挨拶です。「皆さん、おはようございます。本日も大勢の方々にご参加いただきありがとうございます。山麓では桜の花が見頃を迎えておりますが、ここにも浦和一女の皆さんが美しい花を添えていただきました。感謝申し上げます。さて去年は、この百年の森を提案された内藤さん、そしてその提案を実現された川本前同窓会長が相次いでお亡くなりになり、とても残念でございました。しかし、私たちがお二人の意志をしっかりと受け継いで、この森づくりを進めてまいりたいと思います。『浦高百年の森づくり』は、『さいたま環境賞』に続き、去年は埼玉県『本多静六賞』、さらには国土緑化推進機構から『ふれあいの森林づくり理事長賞』をいただきました。これは、県内の森づくりの先鞭をつけたことが評価されたものであります。浦和一女の『麗風の森』やさまざまな学校同窓会が森づくりを進めてくれております。そうした森づくりの先頭に立って、これからもこの森を大切に育てていきたいと思ひます。本日も、良い汗をかいていただき、昼には美味しい豚汁を召し上がっていただきたいと思ひます。どうぞ、お楽しみにしていただき、作業に励んでください。」



続いて、中村修子・浦和一女麗風会会長【写真②】のご挨拶です。「皆様、おはようございます。麗風会の森も5年目を迎え、世代間交流をはじめとしたさまざまな方々との交流ができるような場になってまいりました。本日も、現役生徒が参加してくれ、新しい交流が芽生えればと期待しております。よろしくお願ひいたします。」



今日は風も穏やかで空が澄み、絶好の森日和です。【写真左上③: 挨拶を聞く参加者】【写真下④: 現役生徒たち】

＊

本日の作業は、カシ林でアイダモなどの植栽と除伐(7回～9回)、カヤ林で歩道修復と除伐(11



回～18回)、スギ林で間伐と除伐と歩道補修(19回以



降)、ヒノキ林で間伐(現役生徒)という割り振りでした。

私はスギ林での間伐に参加しました。杉林には、広

葉樹などの陰で生育の悪い木や、密集していて周辺環境を悪くしている木などに、農林公社の皆さんが目印のテープを巻いてくれています。



【写真⑤～⑦: 間伐作業】

す。それを間伐していくのですが、葉が多く、目通り10センチ、末口15センチを超える木を剪定用ノコギリで切り倒すのは結構な力業でした。



私が倒した最初の木は、長さが9メートル近くあり【写真⑧：倒して枝を払った状態のスギ】、受け口を作るためにノコギリ

を入れても、木の重みでノコギリがうまく挽けないという状態でした。1本の木を倒して枝を払うのに30分近くかかります。約1時間30分の作業を終えて、待ちに待った昼食です。

＊

山小屋に戻ると、綿貫均・料理長(14回)のもと、女性陣が豚汁を作ってくれました【写真⑨】。



川野会長が経営されるヤオコーさんからの美味しい食材を、さらに料理長が愛情と技で調理してくれた豚汁は、「百年の森」の名物になっています【写真⑩】。私は、この豚汁を知ってから

は、おむすびしか持ってきていません。

＊

●50年後のバットを振りたい！



昼食を終えたところで、今回は野球部OB会の皆様によるアオダモの記念植樹が行われました【写真⑪】。代表の茂木俊夫さん(7回)のご挨拶です。

「私たち野球部OB会から、この森に20本のアオダモの木を植えさせていただきました。アオダモは野球のバットとして使われる木ですが、育成には早くて30年、バットには50～60年はかかると言われています。ぜひ、この木で作ったバットで素振りをしたいものです。」 素晴らしい！

私たち春日部地区浦高会のメンバーも、全員で記念樹の脇で記念撮影です【写真⑫：後列左は飛び入り参加の吉田兼紀さん(13回)】。



＊

●この山を大事に育てていきたい！

午後の作業が始まりました。作業内容は、午前中に倒した木を1.5メートル程度に切り、樹皮を剥くことです【写真⑬⑭】。秋に



はなかなか剥けない樹皮が面白いように剥けます。柔道部OBの皆さんは、歩道修復の力作業です【写真下⑮：草木で覆わ

れた獣道を修復していきます】。

作業を終えて小室正人・森委員長のご挨拶では「8年目を迎えた森も山になってきました。ぜひ、皆さんの力でこの山を守りたいものです」・・・と。

